Graduate School of Yamazaki University of Animal Health Technology

ヤマザキ動物看護大学大学院

Graduate School of Animal Health Technology

動物看護学研究科

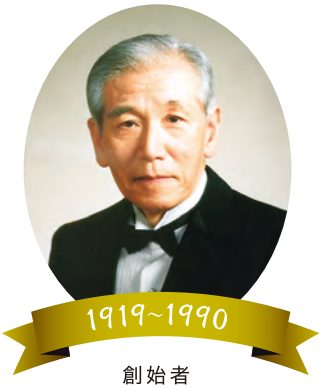
Animal Health Technology Course

動物看護学専攻（修士課程）

- 動物看護学領域
- 動物人間関係学領域

2022

（令和４年度）



創始者

山崎良壽

建学の精神

「生命への畏敬」「職業人としての自立」

“人間は、地球上に存在する多種多様な生命に対し、尊敬の心を持ち、生態系の摂理の中で生かされている生命であるという思想のもと、共に生きるものに限りない愛を注ぐ”この精神を通して調和のとれた平和な社会の建設に寄与する豊かな人間性と幅広い視野を持つ人間教育を行う。

教育理念

「生命（いのち）を生きる」

動物愛護の精神のもと、人間が自分たちよりも小さな弱い立場の生命に思いやりの心を忘れず、動物たちと豊かに共生すること。

理事長
博士(学術)・動物人間関係学

山崎 薫

大学院設置にあたり

この度、2020(令和2)年10月23日(金)文部科学省　萩生田光一大臣より「ヤマザキ動物看護大学 大学院 動物看護学研究科」の設置が認可されました。このことは、動物看護分野のパイオニアとして、日本の動物看護学教育における体系化の実現に向けた大きな一歩となりました。

さらに、2019(令和元)年6月21日、農林水産省と環境省の主務省のもと「愛玩動物看護師法」が法制化されたことにより、愛玩動物看護師が獣医師のパートナーとして高度化する動物医療を支えるばかりでなく、人と動物の共生社会を目指して多岐にわたる分野での活躍が期待されています。

現在、少子高齢化が進む日本において、イヌやネコの飼育頭数は15歳未満の子供の数をはるかに超え、ペット関連総市場は1兆6000億円に届くとも予想されています。動物病院やペットサロンはもとより、動物の生から死までに関わる新たな分野において関連する産業界のさらなる発展のため、動物に関する科学的専門知識を有する人材の養成が希求されております。

本大学院では、これまで培ってきた学部及び動物看護学科と動物人間関係学科を基盤に教育・研究を発展させ、高度動物医療に繋がる動物看護の専門知識をもって動物看護の分野で指導的役割を果たす人材や、人と動物の共生社会において、動物の置かれた環境に留意し、人と動物の健康で豊かな生活の維持とペット関連産業の向上に寄与する人材の養成をめざして参ります。

大学院修士課程の概要

【大学院名称】ヤマザキ動物看護大学大学院

【研究科・専攻・定員】

研究科	専攻	修業年限	入学時期	入学定員	学位
動物看護学研究科	動物看護学専攻	2年	4月	5名	修士 (動物看護学)

教育研究上の理念及び目的

ア　教育研究上の理念は、生命を尊重する倫理観を備え、幅広い視野と創造性をもった豊かな人間教育を行うことである。

イ　本研究科は、法制化された愛玩動物看護師がチーム動物医療において果たす役割に鑑み、動物看護学に関する学術的理論及びその応用を深く教授研究することを目的とする。

ウ　本研究科は、人と動物の豊かな共生社会を構築するため、人と動物の関係に関する学術的理論及びその応用を深く教授研究することを目的とする。

エ　本研究科は、動物看護師の養成所（専修学校等）、動物病院、動物関連企業及び動物関連団体等に従事し、公衆衛生の教育・指導に貢献するため、学術的理論及びその応用を深く教授研究することを目的とする。

オ　本研究科は、ペット関連産業界（動物医療を含む）の発展のために、動物看護学及び動物人間関係学の研究を深く追求し、2領域の指導者を養成することを目的とする。

動物看護学研究科の特色

動物看護学研究科　動物看護学専攻（修士課程）の教育課程を編成する3つの枠組み

1 基礎科目

2 専門科目
- 動物看護学領域
- 動物人間関係学領域

3 特別研究

動物看護学領域

動物看護学領域とは

教育研究において、**動物医療・動物の健康**を対象範囲とし、
『「愛玩動物看護師法」及び「動物の愛護及び管理に関する法律」に則り、
生命を尊重し、愛玩動物を対象に高度チーム動物医療を支え、
獣医師の指示の下、診療の補助及び疾病にかかり、または負傷した
愛玩動物の世話、看護』を定義とする。

動物人間関係学領域

動物人間関係学領域とは

教育研究において、**人と動物の共生社会に関するもの**を対象範囲とし、
『「愛玩動物看護師法」及び「動物の愛護及び管理に関する法律」に則り、
生命を尊重し、友愛及び平和の情操の涵養に資するとともに、
人と動物の共生する社会の実現を図り、動物の適正飼養及び
人の生活環境の保全』を定義とする。

カリキュラムツリー

養成する人材像

ア　建学の精神と教育理念に則り、生命を尊重する倫理観を備え、社会に貢献する人材
イ　動物病院等に従事し、動物看護師として、高度動物医療の研究・発展に貢献する人材
ウ　動物関連企業及び動物関連団体等に従事し、人と動物の共生に関する研究・発展に貢献する人材
エ　動物看護師の養成所（専修学校等）、動物病院、動物関連企業及び動物関連団体等に従事し、公衆衛生の教育・
オ　研究により身につけた論理的思考力をもって、発展するペット関連産業界（動物医療含む）に貢献する人材

アドミッションポリシー（AP）		カリキュラムポリシー（CP）	
ア	動物愛護の精神に則り、本学の建学の精神及び教育理念に共感する者	ア	学士課程を基盤に基礎科目においては、生命倫理学特論及び動物愛護・福祉特論を必修科目として配置する 動物看護学領域、動物人間関係学領域の基盤となる動物看護学Ⅰ、動物人間関係学特論、ヒトと動物の環境科学特論を必修として配置する
イ	動物看護学に興味・関心があり、動物病院等において動物看護師としてチーム動物医療に貢献し、高度動物医療の研究・発展に意欲を有する者	イ	専門科目の動物看護学領域においては、高度動物医療における動物看護能力を養うために応用動物看護学Ⅰ及び演習、応用動物看護学Ⅱ及び演習を配置する
ウ	動物人間関係学に興味・関心があり、人と動物の豊かな共生社会の構築に貢献し、動物人間関係学の研究・発展に意欲を有する者	ウ	専門科目の動物人間関係学領域においては、人と動物の関係を理解する能力を養うために応用動物人間関係学Ⅰ及び演習、応用動物人間関係学Ⅱ及び演習を配置する
エ	人と動物の共生社会における公衆衛生学に興味・関心があり、動物看護師の養成所（専修学校等）、動物病院、動物関連企業及び動物関連団体等において公衆衛生の教育に貢献し、動物看護学の教育・研究・発展に意欲を有する者	エ	基礎科目において、動物看護教育の歴史・制度を理解する能力を養うために動物看護教育特論を配置する 専門科目においては、公衆衛生を教育・指導する能力を養うために応用動物人間関係学Ⅰ及び演習を配置する さらに、人と動物の関係性を理解するために応用動物人間関係学Ⅱ及び演習を配置する
オ	動物看護学、動物人間関係学の基礎知識を有する者または研究テーマに沿った基礎知識を有する者	オ	動物看護領域または動物人間関係学領域における研究能力及び課題解決能力を養い、修士論文を作成するために基礎科目に研究方法論及び特別研究を配置する

1
前期
基

生命倫理学特論（必）
動物愛護・福祉特論（必）
動物看護学Ⅰ（必）
動物看護学Ⅱ（選）
動物看護学演習（選）
動物人間関係学特論（必）
動物人間関係学演習（選）
ヒトと動物の
環境科学特論（必）
研究方法論（必）

【～9月】
指導教員の決定
研究テーマの決定

指導に貢献する人材

動物看護学研究科　動物看護学専攻（修士課程）の教育課程を編成する3つの枠組み

1 基礎科目

2 専門科目
- 動物看護学領域
- 動物人間関係学領域

3 特別研究

（必）必修科目／（選）選択科目

教育過程

年次	2年次	
後期	前期	後期

礎科目

動物看護教育特論（必）

専門科目

【動物看護学領域】 応用動物看護学Ⅰ（選） 応用動物看護学Ⅱ（選）	【動物看護学領域】 応用動物看護学演習Ⅰ（選） 応用動物看護学演習Ⅱ（選）
【動物人間関係学領域】 応用動物人間関係学Ⅰ（選） 応用動物人間関係学Ⅱ（選）	【動物人間関係学領域】 応用動物人間関係学演習Ⅰ（選） 応用動物人間関係学演習Ⅱ（選）

【インターンシップ】インターンシップ（選）

特別研究（必）

【10月】 研究計画書の作成 倫理審査・研究開始	【8月】 中間報告会 修士論文の執筆開始	【3月】 研究発表・論文提出 審査・合否判定 学位授与

ディプロマポリシー（DP）

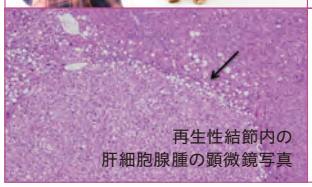
ア	教育目標である生命を尊重する倫理観及び幅広い視野を身につけている
イ	動物病院等において高度動物医療に必要とされる動物看護学の専門知識を有し、課題解決能力を修得している
エ	動物看護師の養成所（専修学校等）、動物病院、動物関連企業及び動物関連団体等において必要とされる公衆衛生の専門知識を有し、社会に貢献できる教育・指導力、課題解決能力を修得している
ウ	動物関連企業及び動物関連団体等において必要とされる人と動物の共生に関する知識を有し、課題解決能力を修得している
オ	各専門分野の修士論文に関わる研究により論理的思考力を身につけている

動物看護学研究科が取り組んでいる研究テーマ

動物看護学領域

動物がん看護における動物看護師と飼い主の信頼関係構築に関する研究

研究指導教員　梅村 隆志 教授（動物病理学分野）



再生性結節内の
肝細胞腺腫の顕微鏡写真

肝再生巣を母地とする肝腫瘍形成過程の分子病理学的解析

研究指導教員　梅村 隆志 教授（動物病理学分野）

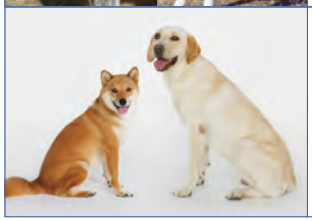
動物人間関係学領域

動物のアート（西洋絵画等）を通してイヌ品種の改良の歴史を探る

研究指導教員　奥野 卓司 教授（動物文化人類学分野）

川上犬の保存における飼育状況と毛色の分子遺伝学的解析

研究指導教員　小黒 美枝子 教授（分子生物学分野〈イヌの特性〉）



柴犬を代表とする和犬グループとトイ・プードル、レトリーバーを代表とする洋犬グループにおける行動特性の相違についての研究

研究指導教員　茂木 千恵 准教授（動物行動学分野）

ER

ER八王子動物高度医療救命救急センター

地域のホームドクターと連携し、高度な動物医療を提供する二次診療施設があります。最先端（MRI、CT完備）の臨床現場でのインターンシップを経て、共同研究の道も拓けます。

下記の学科で学んだ方たちも本大学院で関連分野の研究ができます

●動物看護学部の科目等履修制度

論文作成に必要な動物看護の知識修得のため、本学の動物看護学部の科目等履修制度を利用することができます。
費用は1科目あたり2,000円です。

動物看護学領域

例
●獣医学科 ●獣医保健看護学科 ●アニマルサイエンス学科 ●動物危機管理学科
●動物生命薬科学科 ●臨床検査技術学科 ●生命動物学科 ●医療工学科 動物看護学コース
●動物科学科 ●食品ビジネス学科 ●食品科学科 ●食と健康学類

動物人間関係学領域

例
●獣医学科 ●獣医保健看護学科 ●アニマルサイエンス学科 ●動物危機管理学科
●アニマルバイオサイエンス学科 ●くらしの生物学科 ●動物資源科学科 ●生命環境学科
●心理・行動科学科 ●美学美術史学科 ●社会学科 ●国際文化学科 ●芸術文化学科

カリキュラム詳細

動物看護学研究科カリキュラム

（必）必修科目／（選）選択科目

		科目	担当教員
1年次	基礎科目	生命倫理学特論（必）	新島典子・加藤理絵・山北宣久
		動物愛護・福祉特論（必）	菅野多恵
		動物看護学Ⅰ（必）	今村伸一郎・梅村隆志・近藤昌弘
		動物看護学Ⅱ（選）	櫻井富士朗・岡﨑登志夫・大島誠之助・小嶋佳彦
		動物看護学演習（選）	今村伸一郎・梅村隆志・櫻井富士朗
		動物人間関係学特論（必）	山﨑薫・小黒美枝子・奥野卓司・新島典子・茂木千恵・早田由貴子・小嶋篤史
		動物人間関係学演習（選）	小黒美枝子・奥野卓司・新島典子・茂木千恵
		ヒトと動物の環境科学特論（必）	植田富貴子・石川牧子
		動物看護教育特論（必）	山﨑薫・植田富貴子
		研究方法論（必）	今村伸一郎・梅村隆志・櫻井富士朗・岡﨑登志夫・植田富貴子・小黒美枝子・奥野卓司・新島典子・茂木千恵
	専門科目	応用動物看護学Ⅰ（選）	今村伸一郎・梅村隆志
		応用動物看護学Ⅱ（選）	櫻井富士朗・岡﨑登志夫
		応用動物人間関係学Ⅰ（選）	植田富貴子
		応用動物人間関係学Ⅱ（選）	小黒美枝子・奥野卓司・新島典子・茂木千恵
	特別研究	特別研究（必）	今村伸一郎・梅村隆志・富田幸子・岡﨑登志夫・植田富貴子・小黒美枝子・奥野卓司・新島典子・茂木千恵
2年次	専門科目	応用動物看護学演習Ⅰ（選）	今村伸一郎・梅村隆志
		応用動物看護学演習Ⅱ（選）	櫻井富士朗・岡﨑登志夫
		応用動物人間関係学演習Ⅰ（選）	植田富貴子
		応用動物人間関係学演習Ⅱ（選）	小黒美枝子・奥野卓司・新島典子・茂木千恵
		インターンシップ（選）	梅村隆志
	特別研究	特別研究（必）	今村伸一郎・梅村隆志・富田幸子・岡﨑登志夫・植田富貴子・小黒美枝子・奥野卓司・新島典子・茂木千恵

●修了要件

基礎科目においては、必修11単位に加え、選択4単位の中から2単位以上修得する。
専門科目においては、動物看護学領域・動物人間関係学領域のそれぞれから2単位以上修得の上、
専門科目（選択科目）全体で9単位以上修得する。
以上の基礎科目と専門科目に加え、特別研究10単位を修得し、修了要件は32単位以上とする。
特別研究については、研究指導を受けた上で、修士論文を作成し、
論文審査に合格することにより単位を修得する。

科目紹介

基礎科目

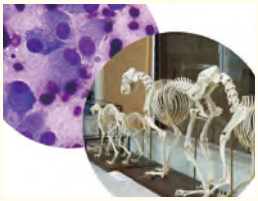
生命倫理学特論（必修）

動物看護領域の主導的な職責遂行に必須の、生命倫理の理解と応用的実践力を学修する。伴侶動物を含む全動物種への畏敬の念や愛護の精神を、生命倫理の知識を礎に醸成する。

動物愛護・福祉特論（必修）

動物愛護・福祉の基本概念に注目し、動物に対する人々の考え方は多様であることを理解させ、動物の生活の質をより良くするためには科学・倫理・法規の３分野の向上が必要であることを理解させる。

動物看護学Ⅰ（必修）



動物看護学を学問として発展させるために、基礎の３本柱となる解剖学・生理学、病理学及び薬理学分野の基礎研究について学び、愛玩動物看護師の果たすべき具体的役割を考える。

動物看護学Ⅱ（選択）

愛玩動物看護師の果たすべき具体的役割を考える指針となる、動物医療における研究法や臨床手技に関する内容について、研究データに基づいて具体的に詳しく教授する。

動物看護学演習（選択）

動物看護学領域の解剖学・生理学、病理学、内科学分野における研究課題を紹介し、ディスカッション、プレゼンテーションを通して、当該分野における研究の意義を理解できるようにする。

動物人間関係学特論（必修）

「動物と人間の関係性」のテーマを、アニマルセラピー、分子生物学、動物行動学、文化人類学、社会学、愛玩動物（犬、猫、鳥）の特性などの各分野における幅広い研究手法に基づいて解説する。

動物人間関係学演習（選択）

人と動物のつながりを、教員が著した成書、論文を例に、文献検索、文献収集、遺伝子・ゲノム情報データベース利用・解析などから理解する。学生自らが把握した情報について討論、発表を行う。

ヒトと動物の環境科学特論（必修）

本特論では、これまでにどのような環境問題が発生し、それらの問題に対してどのような対応がなされてきたのかを動物看護学分野と関連づけて教授する。

動物看護教育特論（必修）

国内外の動物看護教育の歴史及び動物看護教育制度の現状や課題について教授するとともに、動物病院、動物関連産業、動物福祉施設などにおける公衆衛生について教授する。

研究方法論（必修）

動物看護における研究を実施するための方法論や文献情報の収集法について、各分野別に学修し、これらの学修に基づいて、特別研究のテーマ選定の一助とする。

専門科目／特別研究

応用動物看護学Ⅰ（選択）
動物看護学領域

解剖学、生理学、病理学は、医学や獣医学を学ぶ基礎・土台となり、動物看護学を学ぶ上で極めて重要である。これら基礎知識をさまざまな臨床場面で応用ができるようにする。

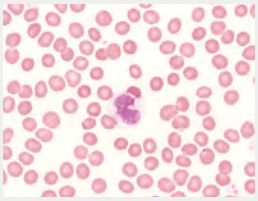
応用動物看護学演習Ⅰ（選択）
動物看護学領域

動物看護学演習で学修した内容を基に、それら分野の最新知見を検索、入手し、ディスカッション、プレゼンテーションを通して、動物看護学領域においてどのような意義を有するのか自ら考察する。

応用動物看護学Ⅱ（選択）
動物看護学領域

愛玩動物の各種疾患の病態に応じた専門的看護の研究を推進するための理論・実験法・看護法についての理解を深め、修士論文執筆に備えることができるように教授する。

応用動物看護学演習Ⅱ（選択）
動物看護学領域



演習により、愛玩動物の血液の形態学的及び生理学的な異常を察知し、病態に応じた専門的看護を行うための研究を推進する理論・実験法・看護法について教授する。

応用動物人間関係学Ⅰ（選択）
動物人間関係学領域

本講義では人間と動物の共生についての歴史的経緯、現在問題となっているヒトと動物の共通感染症、汚染物質、害獣などの問題点とそれらへの取り組みについて教授する。

応用動物人間関係学演習Ⅰ（選択）
動物人間関係学領域

本演習では、動物関連公衆衛生学分野のテーマについて、学生自らが文献を収集して授業時間中に学生間で討論しあうことにより、自ら問題を解決する応用能力を涵養する。

応用動物人間関係学Ⅱ（選択）
動物人間関係学領域

動物と人間の関係性について、文化人類学、分子生物学、社会学、動物行動学、動物人間関係学の視点から解説する。秋田犬と人、家庭犬と人、猫と人、鳥と人、現代社会の動物と人の関係について研究論文、成書を紹介し、解説する。

応用動物人間関係学演習Ⅱ（選択）
動物人間関係学領域

人と動物のつながりについて、長年にわたり保存管理してきた動物種などを扱い、担当教員がそれぞれの分野で著した成書、論文を例に、文献検索、文献収集、文献内容の把握を行う。

インターンシップ（選択）

ヤマザキ動物看護大学構内に併設されている「ER八王子動物高度医療救命救急センター」において、Emergency Rescue（救命救急）の高度動物看護医療体制について実践する。

特別研究（必修）

動物看護における研究を実施するための方法論や文献情報の収集法について、各分野別に学修し、これらの学修に基づいて、特別研究のテーマを選定し、修士論文を執筆する。

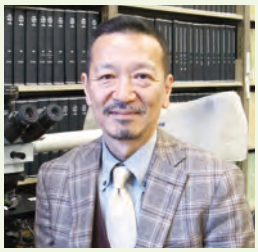
大学院を支える教員陣

修士論文指導担当 専任教員

出願前に希望する研究テーマに該当する専門分野の修士論文指導担当専任教員との事前相談が必要です。

動物病理学分野

梅村 隆志 研究科長・教授
獣医博士・獣医師

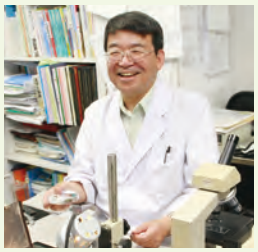


環境化学物質のヒト安全性を確保することを目的に、実験動物への化学物質暴露による病態発生の毒性病理学的解析から、その毒性発現機序のヒトへの外挿性を考察する。大学院では特に分子病理学的手法を加え、解析結果の精緻化を進める。具体的な研究テーマとして、化学物質誘発による肝臓の再生性増殖性病変における増殖シグナル ON/OFF 機構、慢性増殖性病変の腫瘍化への転帰に係る分子機構の解明などを進める。

【担当科目】
動物看護学Ⅰ／動物看護学演習／研究方法論／応用動物看護学Ⅰ／応用動物看護学演習Ⅰ／インターンシップ／特別研究

動物検査学分野

岡﨑 登志夫 教授
博士（学術）



動物検査技術を用いて、動物の体を構成する各種成分の機能や動態、臨床的意義等に関する研究を展開している。具体的には、「電子顕微鏡解析によるクジャク、インコ、カケス、カワセミなどの鳥羽毛の構造色発現機構や紫外線反射機構の研究」、「UV 照射で赤色蛍光を発する卵殻や鳥羽毛のプロトポルフィリン分布に関する研究」、「パピー期の ALP アイソザイムの研究」、「イヌの進化と P-アミラーゼ活性の関係に関する研究」などである。

【担当科目】
動物看護学Ⅱ／研究方法論／応用動物看護学Ⅱ／応用動物看護学演習Ⅱ／特別研究

動物解剖生理学分野

今村 伸一郎 教授
博士（獣医学）・獣医師

骨格構造に関する研究を主体とし、学部卒業研究では、動物の全身骨格標本作製を通し、動物種差による骨格の特徴の比較を行うことと、透明骨格二重染色標本作製にチャレンジしている。これらを踏まえて大学院では、動物固有の骨格の形態が、その動物の活動様式とどう結びついているのか、部位をフォーカスして探求していく。また、透明標本作製の方法論の最適化を図りつつ、どう応用できるか検討していきたいと考えている。

【担当科目】
動物看護学Ⅰ／動物看護学演習／研究方法論／応用動物看護学Ⅰ／応用動物看護学演習Ⅰ／特別研究

動物内科学分野

富田 幸子 教授
医学博士・獣医師

心臓や血管などの循環器形態の発生を中心に研究を行う。学部ではイヌ、ネコ、カメ、リス、など様々な脊椎動物についての発生、進化、生態そして病態について幅広く研究を進めている。大学院では胚発生の形態形成過程の3次元レベル解析と分子シグナル解析を合わせた時空間的包括的検討を行う。またMRIやCT情報に基づいた3D解析による正常と疾患動物の病態を解析、理解する。正常と疾患を持つ動物の病態を知ることで動物看護実践の一助となるよう研究を指導する。

【担当科目】
特別研究

衛生学・公衆衛生学分野

植田 富貴子 教授
農学博士・獣医師

学部においては、誰かから教えられたものを正確にまとめることができるということが到達点でしたが、大学院ではまだ誰も知らないことを自分自身の力で導き出さなければならない。衛生学・公衆衛生学分野では環境衛生の観点から「環境汚染モニタリングのための生物学的指標に関する研究」および人の精神衛生の観点から「動物虐待に関する研究（指標の作成）」をテーマとして研究を進める。

【担当科目】
ヒトと動物の環境科学特論／動物看護教育特論／応用動物人間関係学Ⅰ／応用動物人間関係学演習Ⅰ／研究方法論／特別研究

分子生物学分野（イヌの特性）

小黒 美枝子 教授
理学博士

動物人間関係学領域・分子生物学分野では、日本列島に在来してきた日本犬における毛色、および毛の長さの遺伝様式に関する研究をテーマとしている。日本犬における毛色、および毛の長さに関与する遺伝子多型については、いまだ未知のことが多くあります。日本犬の健全な保存管理の上からも、分子生物学的実験研究は重要である。例えば信州川上犬について、毛色および毛の長さにする遺伝子多型を解析、同定する研究などがある。

【担当科目】
動物人間関係学特論／動物人間関係学演習／研究方法論／応用動物人間関係学Ⅱ／応用動物人間関係学演習Ⅱ／特別研究

本研究科の専任教員はすべて学部の専任教員です。

動物文化人類学分野

奥野 卓司 特任教授
博士（学術）・専門社会調査士

世界の各民族で、動物についての感覚が異なる。それが日常生活でのコンパニオン・アニマルに対するつき合い方の違いにも現れます。アニメ、映画、物語、アートなどから、そこに表象されている様々な人間と動物の関係性が読みとれる。動物園、美術館をめぐり、自然にふれ合う観光で、生き物の歴史、文化を知ることができる。その違いをおたがいに認め合うことが、ひとつの地球の上で多様な動物と多様な人間が生きていくための知恵となる。

【担当科目】
動物人間関係学特論／動物人間関係学演習／研究方法論／応用動物人間関係学Ⅱ／応用動物人間関係学演習Ⅱ／特別研究

ペットの社会学分野（ペットロス）

新島 典子 教授
修士（社会学）・専門社会調査士

動物、主にペットをめぐる社会問題に対し、臨床社会学の視点から相互行為論的アプローチ等を採っている。例えば、伴侶動物の介護支援、ペットロスの辛さ軽減に向けた予防や対処等を検討するため、国内外の先行論文、書籍、記事等を分類する文献調査、現地での参与観察、関係者への聞き取り調査等を行っている。この他、動物霊園、老犬老猫ホーム、猫カフェ等動物関連産業も含めた、人と動物の多様な関係性を社会学的に扱っている。

【担当科目】
生命倫理学特論／動物人間関係学特論／動物人間関係学演習／応用動物人間関係学Ⅱ／応用動物人間関係学演習Ⅱ／研究方法論／特別研究

動物行動学分野

茂木 千恵 准教授
博士（獣医学）・獣医師

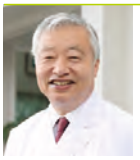
ヒトと動物の共生社会構築に不可欠な動物福祉の向上を目指し、犬と猫の行動発現の要因と問題行動を研究する。学部では問題行動予防法について研究し、大学院では、動物行動学に基づく客観的な飼育方法の評価基準の選定や、飼育動物の福祉に寄与する飼育者の飼育意識に関する研究手法を指導し、特別研究では、飼育者を対象とした量的・質的調査を通じて、コンパニオンアニマルの問題行動の要因を多様な視点から分析する。

【担当科目】
動物人間関係学特論／動物人間関係学演習／応用動物人間関係学Ⅱ／応用動物人間関係学演習Ⅱ／研究方法論／特別研究

研究の基を支える科目担当教員

●専任教員

山﨑 薫
理事長・学長・教授
博士（学術）



櫻井 富士朗
特任教授
博士（学術）・獣医師
日本看護学会理事長

石川 牧子
教授
博士（理学）

加藤 理絵
准教授
博士（教育学）・
臨床心理士

●兼任教員

山北 宣久
神学修士
ヤマザキ動物看護専門職短期大学 学長 教授

菅野 多恵
獣医師
群馬県食肉衛生検査所
嘱託検査員

近藤 昌弘
博士（獣医学）・獣医師
共立製薬株式会社
国際事業推進部フェロー

大島 誠之助
獣医学博士
アニマテック・オオシマ代表

小嶋 佳彦
獣医師
新潟ねこの病院 院長
小島動物病院アニマル
ウェルネスセンター 名誉院長

早田 由貴子
獣医師
エルムス動物医療センター
名誉顧問

小嶋 篤史
獣医師
鳥と小動物の病院リトル・バード 院長／鳥類臨床研究会 副会長兼編集／日本エキゾチックペット動物学会 理事

学費

【1・2 年次共通】

	授業料 （実験演習費含む）	施設設備費	合 計	年 額
前 期	400,000円	75,000円	475,000円	950,000円
後 期	400,000円	75,000円	475,000円	

入学金　150,000円　●学校法人ヤマザキ学園の卒業生は15万円の入学金を免除します。
この他の諸費用については事前相談でお問い合わせください。

【動物看護学部の科目等履修制度】
他分野からの入学生に対し、動物看護学部の科目等履修制度を利用して、学部科目（実習科目を除く）が履修できます。
費用は1科目あたり2,000円です。

【長期履修学生制度】
社会人入学生で、2年間の修了年限での単位取得が困難な場合は、3年間で計画的に学修することができます。

【ティーチング・アシスタント（TA）制度】
教育の補助業務に対して一定の手当を支払う制度があります。

●上記制度の利用を希望する出願者は事前にご相談ください。

入学試験

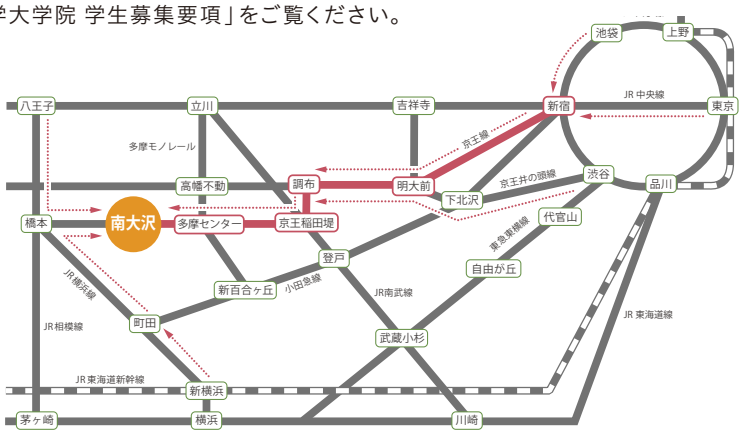
入学後のミスマッチを防ぐため、事前相談が必要です。
希望する研究テーマに該当する専門分野の専任教員（研究指導教員予定者）と事前相談してから出願となります。

【 一般入学試験 】　英語及び専門科目、小論文及び口頭試問
【 推薦入学試験 】　専門科目、小論文及び口頭試問
【社会人入学試験】　専門科目、小論文及び口頭試問

※詳しくは「令和4年度 ヤマザキ動物看護大学大学院 学生募集要項」をご覧ください。

メインキャンパス

南大沢キャンパス
●東京都八王子市南大沢4-7-2
●京王相模原線 南大沢駅 徒歩10分



学校法人 ヤマザキ学園
ヤマザキ動物看護大学大学院
〒192-0364 東京都八王子市南大沢4-7-2
京王相模原線 南大沢駅 徒歩10分
0120-124979

2021年6月15日発行 ©無断転載を禁ず（写真及び文章表現全般）本書の内容等は変更になる場合があります。